



五一·五事件判決印象記

[illegible]

歷史的大公判

ある十一年、尤も、尤もに、
分府山にあり。
西村裁判長



西村裁判長

開かれた法廷で、被告は「私は、先づ人権を主張する。私は、人権を主張する。私は、人権を主張する。」と叫び、涙を流して訴えた。

法廷の傍聴席には、多くの記者や市民が詰め寄り、事件の様子を見守っていた。裁判官は厳格な表情で審理を進め、最終的に判決を下した。

この事件は、日本の憲政史上重要な一頁となっており、人権の重要性を国民に広く認識させるきっかけとなった。

[illegible]

後藤映範君

法務官が「大分長いから、要領を簡してよろしい」と、要領を示しますと、後藤は軽くなづいて

古賀清志君

して
後、
あり
に
至々

本
路
を
開
く
は
せ
ば
年
少
の
間
に
か
ん
が
た
が
も
し
た
席、
二
三
た
フ
した
す
が
か
ひ
と
は

[illegible]

公卿と武家

信長と西園寺家

[illegible]

當ても、察するものだから、それを創って、
直に、朝霧の御精しつゝ、燃えるものは、三万有餘の
外に過ぎなかつて、

西園寺 老



ふ、あつて、ういて聞かされても、引寄せられたいは、そのもので、金儲けで、生計を西へんでん。たの願でも、望の女公卿と、大に思ひ入るはなかり。

公近影



土の上には、さむ上置きの履物のもので、その感度の方、一と角りであく、これは、土の方でも、脚が不意にあたく下に出して、感度されるい、私が、腰分の附子であった。

さい、お前、目玉以上、ついでに来のちである。

[illegible]

伊藤痴遊 第二面

維新前後の陶庵公



雪依画



伊藤痴遊
第一回

維新前後の陶庵公

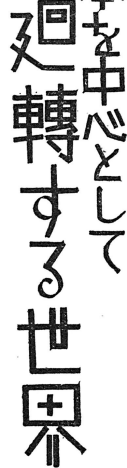
い。さうであらう。

寶川の代りたて、
家督継ぎ、妾は、如
も、御妻を、認
めてゐるやうに思は
れたが、これでも、妾
だのことは、御達
の不意に當しては一
回下、押し、御妻公
は、しななかつた。

御所の御手帳に、或
は、御師匠の手入れ
とか、いふや人の
贈つてゐるものは、よ
くつかめたが、肝心
のものについては、は
んのお習ひで、(密)
か十三行をとりで
あつた。

しかも、十三万白が
そっくり、御所の御料
でなく、その中では、
公卿の御用、御所に
めぐる、女のお手

[illegible][illegible]



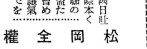
池崎忠孝

[illegible]

いはと背水の陣を布いてゐるもの

[illegible]

は抵抗する用意を有するものだ。

[illegible]

て行はれた「十三日暴動」の義勇の志士を殺すことがないとはいへない。一個のアフリカすらも、な世界の習俗に倣ふ時代において、一九三一年九月十八日

實話
地方版

台灣人ゆゑに

迫害された愛人
江維敦君と千代子さん
村山新太郎

季休館に入る時、彼は彼のクマ
マートで今國家の新聞にあたる
から引き合はされて、はじめ
代子さんを知つた。

吾君は日本語が巧みだつたし、
れに内地人らしい、美男つた
で、代子さんは「最初、台灣人
らしく交際して来た。一度會
ふと、二度會ふうちに人の交際
の、いつかは、いつかは、いつ

宵の郊外などで、甘い戀をさし
くやうになつてゐた。椰子の樹
に生れる甯國の若い男女の戀が
情熱の焰で紅く燃へさかるや
に、甯國の血の流れてゐる江蘇
戀も、また何ものをも灼きつく
ないではおかぬ情熱そのもの
あつた。

「僕が打明けたやつたのは、思ひ
かつたかも知れない。しかし、思ひ
に人嫌ひで、僕達の愛は、思ひに
だ、まして僕達は同じ日本人
やないか。僕のためにあゆる程
橋から落ちて、どんな家系とも調
子をとるな、つてれ」

今岡千代子さん

[illegible]

ある夜だつた。
「千代子さん、僕、千代子さん
こんなこと聞かされたくないんだ
ど、僕ほんとうは台湾生れな
だ。いままで隠してゐたのは僕
悪かつた。だが千代子さんは、
千代子さんは、きつと僕を許し

て能くか白痴人であると思はれて見れば、眞實の一家が、たとひかの女が死を賭して隠れても、聞きいれうはずはなかつた。それ以来代子さんは、腹置と監禁下におかれて外出も許されなくなつた。

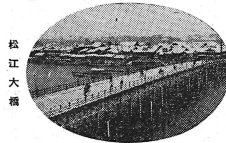
◆◆◆◆◆

梁朝氏母方は、鄭徳の不統を説き、この結核菌離はさっぱり諦めるやうに、あはれどよくいひかせてゐる代子さんが、ま



それに平代子さんの習字家太師匠は、亡父の氣性をそのまま受けついで、妹たちにも自然きつくあたるともあった。しかし正統の時たるをくわきまへてゐる邪念とさなかつた、つねにやさしい見えんだつた。

人の態となく『刺の道』へ乗りあけてしまった。だがさう潮を置かれればかされるほど、おたがひの胸ははつるばかりだつた。同僚のひをせす手紙は、ひそかに三人の間にしげくと交された。



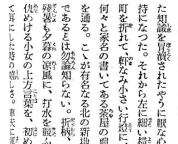
文科三年甲に在學する吉岡村(原稿)
郡大林庄大字大南出町今岡代君
さん(三)、松江市南出町今岡代君
さん(三)の戀愛寫眞事件を、こ
んな見出しでデカくと報じた。そ
の日——二月五日——これと金
曜日は違つてゐたが、大阪毎日
はさらに一歩進んで事件の真相を
明らかにし、讀者の目に、耳に届
くことを務めた。そして先月、私
ら降りつゝいた十數年ぶりと云
めづらしい大雪に閉されて、殆



は、亡父の氣性をそのまま受けついで、妹たちにも自然きつくあた
いでもあった。しかし正統の區
別をよくわきまづてゐて邪なこと
さへなかつたら、つねにやさしい
兄さんだった。

そんな具合だったから千代子さ
んも、さう簡単に自分の體を打ち
あけることは出来なかつた。こと

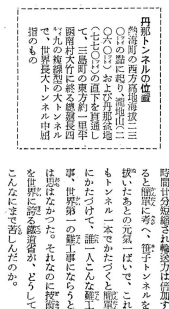
まのふしの思ひ出
小林一三



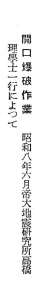
林 義 雄

大計畫を樹てたか

100



難工事となつたか



ならない劣等さである。

て歴史的な地質調査の結果、やゝ安心すべき断層説を得たのである。貫通の今日になってみれば、丹那谷地は真日本から表日本へ抜ける本州中部を二分するフォッサ・マグナ地帯をなす大断層中の隆起地帯で、多数の断層帯から出来てゐる。

正體が次第に判明する

良が重なる。また十六年間のうちに、はねずきも一日と歩歩し、常に留置機、留置方法が採用されて最初の証書とは大分變つたが、その重なる特長は、シネル本館の留置或は上下に、無數の水殺坑（内法、高さ、巾ともに六尺を廻り、これを溝に本館より先に造つてあたり

と、——いふのは、昭和四年七月の探査のまゝ無残にも朱

[illegible]

まゝ放棄されてゐた。

る被^レ害者はその出^レ及^レ庭^ニ丁^ニでやられ
たものと思はれ、柄^ニにタオルを巻
いた疑は指紋を隠さぬ用^ニ意^ニ周到^ニ
注意^ニ懸^ニ心が親はれ、周到な警備使

告書

昭和四年七月五日午前三時
ごろ部内、浪速區大國町一ノ六
三海産物問屋、高橋辰之助方に
殺人事件ありとの報告に接し、
直ちに現場へ出張したるに、被
害者は同家の主人辰之助(三八
にして、店の開上り口に半身置

柏木部長のこの報告書によ

犯人は、すぐ逃走したらしくなり、被害者辰之助は女房しまと落胆してゐるのを、やられたらしく見られる。この美談的的重大事件

二階にある余興劇場で海軍演習

二階にある余興場で淨瑠璃を
いてから、灯ともしころ家へ
りました。十時ごろ奥六疊座
で主人と北枕で添寝し、午
時ごろ二人で便所へ起き、隣
の四疊に寝てゐました小僧の
吉（一六）を小便に起し、その

の間に、十時ごろ東枕に寝

の間に、十時ごろ東枕に寝た
です、いつごろだったか確か
時間は覚えてませんが一眠りし
ころでした、奥さんが「松吉
ん起きて小便しーや」と起し
くれましたので、裏の方へ小
しに行かうとしますと「表で

高橋家の息子にもなるはずの

高橋家の養子にもなるはずの甲
つた、龍太郎々々としき女から
び起され罵いて階下へ墮下りた
の模様につきかう述べてゐる。

✱

✱

と、大體まあかういふので
て、他の店員も皆一やうのこ
をいつてゐる、以上しき女の
通で、旅行前後における高橋方の

[illegible]

参考人の供述内容

参考人の供述内容

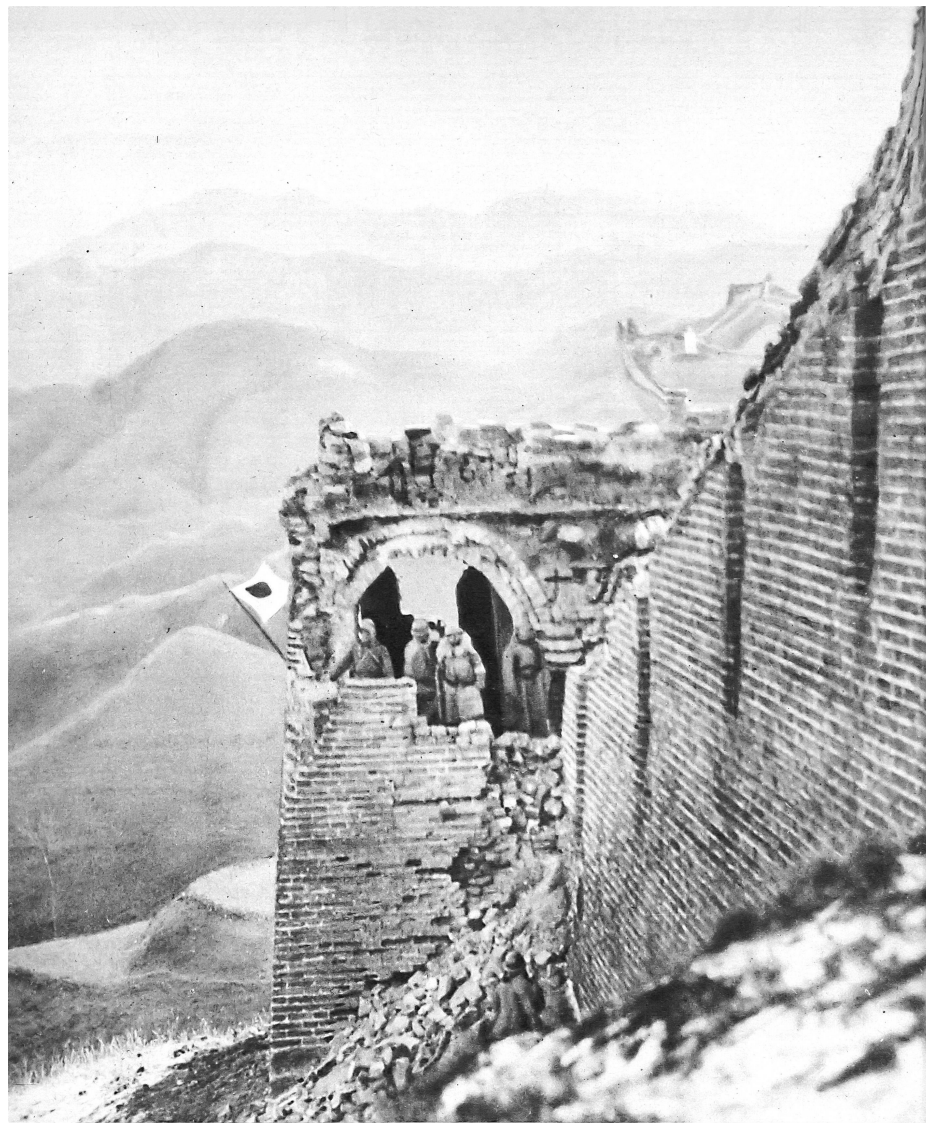
この殺人事件の全容状況を知る

「何をいつてゐるの
りやうちの
庵子を持つ
が布團の上

や」といつて叱りつけましたので、私はこぼれてそこに寝入って上り口へ置きました。

さて「こんなもの
出てあつた、こ
んながな」といふ

しました。



・・・に城長里万旗章日

〔報畫伐討河熱〕る翻旗章日に城長里万

〈 + 聽 + 仁 + 學 + 科

彼と畫計年ケ五

極・東・空・の・脅・威

赤色空軍を暴露す

○郡龍彥○

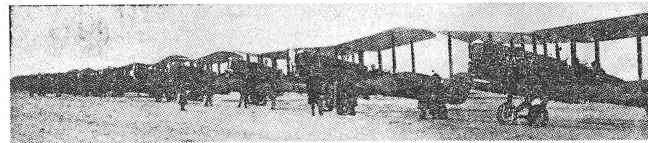
五ヶ年計畫と空軍

[illegible]

過去における模倣時代

[illegible]

赤色空軍の自力發展

[illegible]

赤色空軍に民間團體から献納された

滿洲國建國一周年

[illegible]

新
※※
京
※※
の
※※
魅
※※
惑

村田 孜郎

彼女が臍の脂肪がよく割合つた、小腰ではあるが腰の太れた股廻りと腰の内さきは十六であるといふ彼女をも立派に女にして、ナにすべてのがあくくねつてを、

洲に、この「モナミ」だけは上品で落ちつけるといふ評判。美人で、しかもインテリのママののりだ

を、見詰めた。それは大きな希望を燃わて、だが可んとなぐり安の魚

[illegible][illegible]

滿洲國建國(宣言)後、長春(新京)執政府に入つた當時の執政溥儀氏夫妻

ば日本へ送けに行かうとしてゐるのだから……」

×

一夜倒産濟の大惨劇、黒澤は驚きの餘り、妻なる東北政權を危むるに耽溺し、幾久しく度げられ

たる滿蒙三千万民衆はてうらゝかぬ天日新張國の獨立、新國家建設の風潮の湧立、黒澤の野を空しくするやうに滿蒙の野を空しくするやうに現れ来るその時勢敵して現れるのである。星屋総一郎あつた滿蒙國家は帝冠

行つた。やがて昭和七年二月廿六日、獨立派の各巨頭を集めて奉天に韓國會議が開かれ、遂に三月一日、韓國宣言の發表となり、ここに王道樂土の新國家滿洲國の形成を見たのである。

[illegible][illegible]

政界 嘩話

実話地方版



台北近代風景

李夫人の家出

ダンス享樂の夢をみた李延綿氏

本社台北支局

井上輝二

台北の近代風景... 李夫人の家出... ダンス享樂の夢をみた李延綿氏... 本社台北支局 井上輝二

李夫人の家出... 李延綿氏の夢... 李夫人の家出... 李延綿氏の夢...

奉天の大会戦

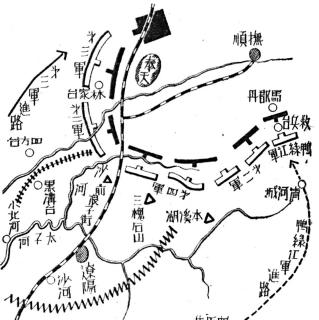
大島健一



三

奉天の大会戦... 大島健一... 奉天の大会戦... 大島健一...

奉天會戰圖



奉天會戰圖... 奉天の大会戦... 大島健一... 奉天の大会戦... 大島健一...

